

# 来週の「売り物記事」はこれ



2017年6月16日号

毎日新聞東京本社 編集局・販促宣伝部

## ゾウの「はな子」と名レフリー

18日(日)



2016年に国内最高齢の69歳で生涯を閉じたタイ生まれのアジアゾウ「はな子」。タイ社会の実力者だったソムアン・サラサス氏(1996年に死去)が1949年、「戦争で傷ついた日本の子供たちを励ましたい」と私財を投じ日本に贈ったゾウです。ソムアン氏の長男、ウクリッドさんも64年、「日本の人脈



を広げろ」という父の命を受けて来日します。ともに孤独な日本生活を始めながらも、はな子は戦後日本の人々を癒やし続け、ウクリッドさんはボクシングのレフェリーとして日本人を鼓舞する試合を裁き続けてきました。日タイの架け橋を運命づけられた「2人」の戦後史をひもときます。

執筆者は東京社会部多摩総局の斉藤三奈子記者です。

## 「ぬれ落ち葉」は今どうなっている？

### 熟年夫たち「自立」と「依存」の今

夕刊特集ワイド 19日(月)



「このままいけば、ぬれ落ち葉になるよ」——。妻にそう言われたことはありませんか？ 「ぬれ落ち葉」は、仕事をリタイアした夫が妻について回るのを皮肉った、約30年前の流行語。もっぱら年配の女性が口にする言葉でしたが、今は若い世代の間でも使われているようです。取材をしてみると、「俺は絶対にならない」という男性でも、妻への依存度はかなりのもの。熟年男たちの家庭における「自立度」や「存在感」を探りました。

## 医師の過重労働

医療・福祉面 18日(日)

新潟市民病院に勤める女性研修医が昨年1月に自殺したのは、過労が原因だったとして労災認定されていたことが分かりました。月平均の残業時間は「過労死ライン」と位置付ける80時間の2倍を超えていたといいます。医師の長時間労働は全国的な問題になっています。患者の命を預かる医療の現場で何が起きているのかを探ります。



## 長官が本音に迫る

### 「月刊五輪」で新対談企画スタート

スポーツ面 20日(火)



毎月第3火曜日掲載の「月刊五輪」で新たに対談企画「長官と語る 2020への決意」がスタート。ソウル五輪金メダリストでもある鈴木大地・スポーツ庁長官＝写真＝が、2020年東京五輪を目指すアスリートたちの本音に迫ります。第1回のゲストは卓球の世界選手権女子シングルスで48年ぶりの銅メダルを獲得した平野美宇選手。4月のアジア選手権では日本勢3人目の優勝を果たすなど、快進撃が続く17歳の強さの秘密を探ります。

## どうなる「ふるさと納税」

くらしナビA面 21日(水)



居住地以外の自治体に寄付すると、その金額の大部分が住民税・所得税の軽減によって戻ってくる「ふるさと納税」。寄付先の自治体からお礼の品が届くことから、利用者が増え続けてきました。しかし、自治体間の返礼品競争が過熱し、総務省は4月に返礼品を寄付額の3割以内に抑えるよう通知を出しました。豪華な返礼品は今度どうなるのでしょうか。

## 「子どもにスマホ」注意点は？

くらしナビB面 20日(火)

子どもがスマートフォン（スマホ）やインターネットでトラブルに巻き込まれることが社会問題となっています。安全、安心にスマホやネットを使うため、保護者はどのように向き合えばよいのでしょうか。ITジャーナリストの法林岳之さんは、スマホでふさわしくないコンテンツを閲覧させない「フィルタリング」や、親子でのルール作りを提唱します。



## My Way 森英恵さん おんなのしんぶん 19日(月)



世界的なファッションデザイナー、森英恵さん。戦後しばらくして東京・新宿にブティックを開店。評判が評判を呼び、ニューヨーク、パリと海外にも活躍の場を広げます。「優れた服は人生を変えられる」。その思いが、海外でも受け入れられました。21年前に亡くなった夫と互いに尊敬しあい、「好きな仕事、すてきな人に囲まれて、やりたいことをやってきた」と半生を振り返ります。

## 老朽化苦しむ大学研究炉

科学面 22日(木)

近畿大や京都大にある研究用原子炉3基が近く、全て再稼働する見通しになりました。しかし大学研究炉は施設の老朽化に加え、学生の減少や核燃料の確保も不安が残っており、存続が危ぶまれています。日本は東京電力福島第1原発事故の廃炉作業などを抱えている一方、原子力分野の担い手不足も懸念されています。大学研究炉の現状と課題取材しました。

